

医心伝心

第3の誕生

県医副会長 小関 支郎

この秋の在宅医療交流会に、ユマニチュードを日本に紹介した小松美和子先生を講師にお迎えする計画が進んでいます。聞きなれない言葉に戸惑ったので、IT音痴の私は書店をうろついてみました。山積みされた『ユマニチュード入門』の帯にNHK「クローズアップ現代」「あさイチ」などで話題沸騰とあり、どちらも見逃した迂闊に気づきました。早速『ユマニチュード入門』（医学書院）と『Humanitude「老いと介護の画期的な書」』著者：イヴ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ、ジェローム・ペリシェ 監修：本田美和子 翻訳：辻谷真一郎とDVD『ユマニチュード 優しさを伝えるケア技術』を手に入れて拝見しました。全容がつかめないうちに、「魔法？奇跡？いえ技術です。」というキャッチフレーズに導かれて試行してみました。以前とは違った確かな手ごたえを感じているとともに、直に教えに触れたい気持ちが沸いていました。

こんな要約をしていいのか危惧がありますが「ロビンソン・クルーソー」の主人公は「第1の誕生」で動物として生まれ、「第2の誕生」によって人間としての社会性を身につけた後、無人島での孤独な生活を長く続けることになったために第2の誕生で得た社会性を失い、動物のように暮らします。しかし、フライデーというもう一人の人間と出会うことで再び社会性を取り戻し、人の世界への帰還をはたします。

この瞬間をユマニチュードでは「第3の誕生」と呼んでいます。歴史上、人は初めて高齢者のケアを行う事態に直面しています。第2の誕生で身につけた社会性を失いつつある高齢者が再び人の世界へ戻ってくる、つまり「第3の誕生」を迎えるためには、ケアするわたしたちがフライデーになるのです。ケアする人たちはそのための技術を身につける必要があります。その具体的な内容がユマニチュードです。

…これまでの仕事の文化や方法も変えなければならなくなるかもしれません。しかしこの変革を成遂げることで、ケアを受ける人、ケアを行う人双方が質の高い、充足した時間を過ごすことができるようになる、とわたしたちは確信しています。

その人に適したケアのレベル、害を与えないケア、ユマニチュードの4つの柱・ユマニチュードの「見る」「話す」「触れる」「立つ」、心をつかむ5つのステップ、とプログラムは進みます。

この人の“人間らしさ”を尊重し続ける状況こそがユマニチュードの状態であると、イヴ・ジネストとロゼット・マレスコッティは1995年に定義づけました。IT次代の20年は、世界を駆けめぐるのに、十分な時間だとも。

普及に汗をかく必要がありそうです。

ユマニチュードのない声高な「効率化」に警戒しつつ。